

## 西川 昌伸 氏

昭和32年生まれ。昭和51年桃山学院高等学校卒業。平成13年賛栄商事株式会社代表取締役、平成17年雷株式会社代表取締役、平成23年讃和コミュニティサービス代表取締役。浪速交通安全協会理事、特定非営利法人日露民間友好協会理事長、社会福祉法人なにわ聖真会理事長。平成22年浪速納税協会会長表彰、平成23年浪速税務署長表彰。



## 堅実をモットーに 地域に貢献できるコミュニティ空間をつくる

浪速納税協会 会長 賛栄商事株式会社 代表取締役社長 西川 昌伸 氏  
にしかわ まさのぶ  
賛栄商事グループ 代表

### 仕事が好きだからこそ健康・元気を第一に .....

——会長の趣味は何ですか。

趣味は健康です。スポーツクラブに週3日は通ってトレーニングしています。15年ほど続けているので、トレーニングをしないと身体がすっきりしません。長く良い人生を過ごすことが大切と思っていますから、健康・元気が第一です。それに、健康であってこそ仕事が果たせるという思いがあり、やはり仕事が好きなんですよ。

——社長としてお仕事でお忙しくされていますね。

ショッピングセンター及び小規模スーパーの入った物件を建て、運営しています。ほかにはないオンリーワン企業として、テナントの方々と力を合わせ、小規模ながら地域に根づいた店づくりを行っています。またモスクワでも事業を続けています。

なぜロシアなのかとよく聞かれるんですが、創業者である父親が陸軍航空隊の少年飛行兵

として満州に行ったことに始まります。17歳の時に終戦を迎え、シベリアに抑留されました。上官や仲間たちが次々と亡くなっていく中で絶望した父は、命を絶つつもりで進んで危険な仕事をしたり、ロシア人の子どもを助けるために凍った川に入ったりしていたため、それを見たロシア兵が生きて日本に帰るように説得してくれたそうです。

恩返しをしたかった父は、後にその方を探し出し日本に招待することができました。さらに、モスクワで何か事業ができればその方たちを支援できるのではと、ソ連崩壊の直前でしたが、私が31歳の時にモスクワに派遣されました。

それから日本では考えられないような苦労もしましたが、「あの人の息子なら」と協力してくださる方もいて、モスクワで小規模ながら駅前立地のターミナル型ショッピングセンターを運営できるようになりました。

# 賛栄商事株式会社

本 社 大阪市浪速区難波中1-16-11-203  
設 立 昭和33年  
事業内容 ショッピングセンター・スーパー・小売り事業、  
不動産・マンション事業  
拠 点 本社（大阪市浪速区）、営業本部（大阪府松原市）

ウクライナ紛争が始まってからは経済も凍結され、非常に厳しい状況になっています。私は現地法人の社長職を辞しましたが、この事業は人との絆から生まれたもので、一緒に

頑張ってきたロシアの友人たちもいます。そして困難ばかりですがモスクワ市民の支持ある限り何とか生き残ります。

## 会 員とともに社会的に成長できる

——会長のモットーを教えてください。

豆腐店から始めて会社を興した父は、一瞬一瞬を捨て身の覚悟で生きることを信条としていました。私もその父の生きざまを引き継ぎ、また豆腐屋の息子らしく「堅実」をモットーとしています。幸運なことに会社を継続できていますので、できる範囲ですが、地域貢献にも力を入れたいと思っています。

浪速区には、働く人は多くても子どもを預けるところが少ないため、地域に役立つコミュニティ空間の一環として福祉法人を立ち上げ、現在、保育所も運営しています。また奈良県香芝市で運営しているショッピングセンターでは、何時間でも自習机で勉強することができるよう、セントラルコートに自習室を設けています。「ここで勉強して志望大学に合格した」と報告してくれる子もいるんですよ。

——では最後に、納税協会会長としての協会に対する思いや抱負をお聞かせください。

私は長年ロシアで仕事をしてきましたので、日本では当たり前と思われることも違った観点から見えるようになりました。納税協会のような団体は、まずロシアにはありません。私が入会して最初に出会った税務署の副署長

さんがおっしゃった、「いろいろな監督官庁の中でも我々が皆さんにいちばん近い。なぜなら我々も納税者なんですよ」という言葉が、今でも忘れられません。納税協会は健全な納税者と税務署の皆さん、税理士の先生方が一堂に会して交流し、社会への貢献を行う人たちの集まりです。これこそが日本の素晴らしい文化であり、日本人の知恵だと思います。

浪速納税協会では交流も盛んで、毎月1回行っているボランティア清掃活動には、税務署長さんも一緒に参加してくださり、近況報告の場では、事業のことなどお互いにざっくばらんに話します。また学校数の少ない浪速区では租税教室の代わりになるものをしようと、数年前には通天閣地下の演劇場で青年部会員等が寸劇を披露しました。

納税協会では、皆が社会的に成長することができます。お互いに認め合い、いろんなことを教え合う。そういう人間関係をつくることのできる場なんです。この文化を後世に残していかなくってはと思い、今後も尽力してまいりますので、どうぞよろしく願いいたします。

——本日はありがとうございました。